

南東北グループ 医療法人財団 健貢会

総合東京病院通信

2017.3

Vol. 53

南東北グループ 医療法人財団 健貢会

総合東京病院通信 Vol.53

●平成29年3月発行

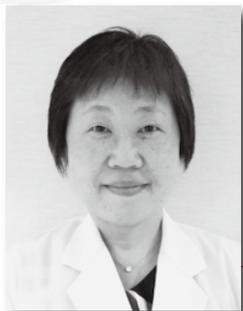
●編集・発行／総合東京病院

〒165-0022 東京都中野区江古田3-15-2

TEL. 03-3387-5421(代)

特集

意外にも身近なSTIの話



泌尿器科 科長
今莊 智恵子

わが国は欧米に比べて家庭内での性教育は重視されて来ませんでした。アメリカでは多種の低年齢児向けの性教育の本が一般書店で華やかに販売されていますが、日本では目にしません。このような背景から一般成人での、性感染症（STI）（＝性行為で感染する病気の総称）についての知識は十分とは言えず、健全な性行為の妨げとなったり、誤った嫌悪感の原因となったりしています。

STIは性的活動期に全ての方がかかる可能性があります。細菌・ウイルス・虫・カビなどが粘膜に接触することで

感染するのです。

STIには多種の病気があり、主なものはクラミジア、淋病、梅毒、性器ヘルペス、トリコモナス症、性器カンジダ、肝炎、エイズなどです。

1度限りの性行為でも感染する可能性があり、また、感染しても無症状の期間（潜伏期間）や無症状の病気もあり、気づかぬままパートナーに感染させることもあります。

自覚症状がなくても、体の中が触まれていたり、不妊の原因になったり、赤ちゃんが母親から感染して障害を起こすこともあります。

性行為をしている限り、完全な予防は不可能ですが、コンドームを使うことで有効に予防できます。避妊用ピルはSTIの予防にはなりません。

ほとんどのSTIが早めに治療すれば治りますので、症状がある場合や感染



PET-CT装置

PET-CTがんどック予約受付中

「PET-CTがんどック」 ※総合東京病院の来院申込者

通常料金 108,000円 ⇨ 優待料金 **86,400円(税込)**

※「脳検査」を追加の場合は、108,000円(税込)になります。

詳しくは、予防医学課へ

☎03-3387-5462

受付時間／月～土（日・祝除く）
AM 9:00～PM 5:00

特集 意外にも身近なSTIの話

が心配な場合は保健所や医療機関に相談しましょう。

また、STIは一度治癒しても、何度でもかかりますので、症状のある場合はその都度、検査・治療が必要です。

STIには流行があります。しかしインフルエンザのように見えやすい形の流行ではなく、日常生活の中ではわかりづらいものですが、ニュース・新聞などを通して、政府機関から随時報道されています。

近年、日米及び先進国で問題になっているSTIの一つに梅毒があります。

梅毒は第二次世界大戦後、わが国で爆発的に流行しましたが、抗生物質の普及により激減していました。しかし、2010年以降、再び増加に転じています。特に15～34歳の若い女性では毎年2倍近くの増加が認められています。

梅毒は細菌による病気です。

感染後3～6週間の潜伏期間を経て、性器におできや潰瘍が現れ、リンパ節が腫れることもあります。これらの症状は放置しても、数週間で消えてしまいますが、症状が消えた後4～10週間すると手・足、全身皮膚にブツブツや発疹ができたり、時に神経症状が起きることもあります。この症状も適切な治療をしなくても、半年以内には消えてしまいますが、体の中では病気は進んでおり、何年も経ってから内臓・神経・心血管系にしばしば生命に関わる重大な症状が現れます。

また、感染した母親が出産した場合、子供に重篤な先天性障害が現れることもあります。

梅毒の治療も早期であれば日常生活の中で完全に治すことができます。

大切なことは予防・早期発見・適格な治療です。

